

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 しらかわ

事業所番号	4471000408		
法人名	有限会社 福祉総合ケアハウス		
事業所名	グループホームおおたの郷		
所在地	大分県杵築市大田石丸1392番地		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.oitakensyakyo.jp/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館1F
訪問調査日	2010/3/19

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○近隣の方々からの野菜・花など頂いた際、その方のご自宅へ訪問しホームで栽培した野菜や手作りのおやつを同居者と一緒にお持ちし、近隣地域の交流を図っている。その甲斐あって、日を追うごとに近隣の方々からホームに足を運んで頂く回数が増えお入り居者との談話・交流等が多くなってきた。
 ○入居者の方も昔農業に従事した方が多く、野菜等の収穫や土いじり等が気軽に出来るよう畑・花壇等の環境を整えている。
 ○緊急時の対策として、職員全員が毎年近隣の消防署で行われている救急救命講習を再講習で受けており、万が一の対応に備えている。
 ○防火対策として、地元消防団と連携をとり緊急時連絡体制の中で即座に団員に連絡が行えるよう対策を講じている。
 ○日中、玄関等の施錠はなるべく行わず、日々終日気軽に散歩や日光浴が出来るように対応・環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

切り立つ岩山が見え隠れする山間の田園地帯に木造平屋造り左右対称2ユニットのホームが在ります。居室から映る中庭の腰高の花壇には、利用者手作りの野菜等が栽培され、生活に潤いと彩りを添えています。日常の散歩や体操、音楽(カラオケ)、作品の制作(文字・数字・絵)等の活動に取り組む中で、身心の機能訓練に励んでいます。食事は「全職員で食べる楽しみを考えていく」姿勢を大切に、職員もテーブルを囲み「一人ひとりに応じた食の営み」のケアに努めています。利用者の日常の暮らしぶりを捉えながら、有るがままの姿を職員が効率的に共有できる書式が多様に整備されると共に、医師や歯科医師の協力体制のもとで、身心の安全・安心な生活の充足に努めるなど、利用者の「笑顔膨らむ日々」の生活を大切にしている様子が伺えます。また、行政や地域を交えた見守りネットワークも確立されており、地域の中の施設として前進的な活動が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を職員全員で話し合い、近隣の環境・地域性を活かした理念を作り、玄関・事務所に掲げている。毎日の朝礼で職員全員で唱和し、理念の意義・理解を共有し日々のケアや取り組みに活かしている。	利用者の日常の思いが詰まった理念への改新は、全職員共有の意識の中で、行動の指針となり「今、何をしなければならないか」を意識づけ、共に暮らす潤いある日々に着し、実践へ実を結んでいます。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人会の清掃活動、ホーム主催の盆踊り、保育園との交流、隣接する中学校生との交流・等を行い、今では気軽にホームを訪れる方や散歩中に挨拶や声を掛けてくれる方が多くなり、地域に根付いた交流がなされている。	地区活動や学校行事、慣わし(お接待)等、参加の必要性を理解する中、施設行事への来訪の誘い、中学生体験学習やボランティアの積極的な受入れも行われています。利用者と共に地域間の交流を深める姿勢を大切にしています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報誌に相談窓口の掲載を行っており、認知症や介護で悩んでいる方々の相談やアドバイスを行っている。また、相談に対して、地域支援事業所とも連絡を取り合い協力をお願いしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市役所職員、包括支援センター職員、地域民生委員、近隣地域の方々、施設管理者等の参加で行っている。会議の内容は議事録に起こし、各会議などで意見や要望を基にサービス向上に役立てている。	施設の現状・課題の改善や見直しや評価について経過報告が行われています。日常生活の健全な維持と地域社会との共生の営みの手段として、見守りネットワークを確立するなど、地域ぐるみの充実した協議が進められています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険改正に対する適正な運営指導、利用者からの市に対する要望の対応、各金銭管理が必要な方々への処置対応等・・・日頃より様々な疑問点や相談などを行い、担当者の方より積極的に協力して頂いている。	市職員担当者とは、会議で利用者の現状や課題が伝えられると共に、アドバイス等も受けており、必要に応じて電話での相談等の連絡が行われています。また、前任者とも継続的に相談できる関係にあります。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会・全体会議などで身体拘束に対し勉強会や話し合いを行っている。玄関等の施設に関しては終日施設せず、外出・帰宅願望等で外に出ようとする時は、さり気ない声掛けや一緒に散歩するなど行動の制限をせず、安全面を考慮して自由な暮らしを支援している。	利用者の癖やサインを職員間で共有する事の重要性を認識しており、職員の気づき・利用者への制しない声かけを大切に、行動を抑制しない自由な支援に取り組んでいます。職員の気づきへの助長(転倒予防)としてセンサーが用いられています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者会議等で虐待防止マニュアルを通じて、日々の介護業務に於ける虐待の有無、ならびに声掛けや姿勢を振り返り、チェックリストを使用して日々確認や啓発に努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の福祉課や民生委員と連携を取り、福祉サービスの援助や日常的な金銭管理、生活保護、身障者手続等の必要な家族、ご本人に対して必要に応じ支援や援助を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事例等も入れながら詳細に分かりやすく説明し納得して頂けるよう配慮している。解約を行う際は、ご家族と十分に話し合い、今後の対応や入居先などの援助協力を行い、理解し納得して頂けるよう対応している。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情や要望などを記入する用紙を設置し、家族の面会時、気軽に要望等を記入して頂くようにしている。意見等があれば、家族会や職員会議にて話し合い運営に反映させている。	広報誌と本人の様子や便りが記載された手紙により、毎月の交流が図られると共に、訪問時は利用者と家族間の交換日記・家族と職員間のノートを通して思いの把握を深めています。その「思い」を糧とし、実践に取り組んでいます。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に数回、職員全体の会議や各ユニットの話し合いを行い、職員それぞれの意見を聞く機会を設け運営に反映させている。	一人ひとりの職員の積極的な運営への取り組み易さを考慮して、役割制を設けており、毎月の全体会議で協議されています。ユニットリーダーを中心に職員相互の関係作りに努めています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員となるべく話をする機会をもち、有休や勤務も出来る限り希望に添えるよう対応している。また、職員の間関係も配慮し事ある時は、なるべく早めに原因追及しトラブル回避に努めている。近年、介護給付の大幅増加もなく厳しい運営が続いているが、出来る限り反映できるように企業努力している		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度等を勘案して、職員とも話し合いながら年間の研修計画表を作成し、各職員の介護技術の向上に活かしている。また、研修後には全体会議にて発表をして報告している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年数回、同業者が参加しての協議会や各職員の研修も頻繁に行い、質の向上を目指し交換研修や交流も年間を通じて行っている。各事業所も積極的に実のあるネットワークの構築を目指し日々良い交流がなされている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時に、ご本人さんと話し合いを持ち、身体状況・不安・要望などを聞き受け止め、初期の支援時は不安を解消できるように努めている。また自宅訪問も行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを十分に行い、入居前面接時に、ご家族と十分な話し合いを持ち本人さんの思いと不安・ホームに求めることを理解して、利用開始後のケアに取り入れている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、できる限り本人・家族と話し合いを持ち、希望や要望を優先し、必要であれば市役所担当課・包括支援センターや医療機関と連絡を取り対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通じて、培った事をできるだけ多く活動に取り入れ、「昔取った杵柄」で共感できる場面作りを努め、利用者から学ぶ姿勢を忘れないように心掛けている。また利用者の思いを大切に持っている力を発揮できるよう支援をしている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や月一回のお便りに職員が書いた利用者の様子や思い・写真を添付して日頃の生活状況を理解していただき協力関係ができています。また、行事等への参加を促し、利用者・家族が共感し合える場も築いている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等の活動企画には、できる限り利用者の望まれる場所を聞いて、故郷方面へ出かけるようにしている。また、以前生活されていた近隣の方々・親戚・友人・知人等が面会に来られ、交流が図れるよう働き掛け、ご家族さんと連絡を取りつなぐを大切にしている	利用者の生活の継続的な支援として、馴染みの方々との信頼関係の保持に努めており、家族とのコミュニケーションの中から情報を得るなど、交流の実践に、積極的に取り組んでいます。また、電話や手紙の援助も行われています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん達で楽しく過ごす時間、気の合う同士で過ごせるような時間作りを配慮している。日常の役割を分担して、家事等細かく分け利用者の心身の状態に応じて、役割を実践してもらうように心掛け、職員が調整役となり支援を行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等いつでも応じる説明を行い、その都度ご家族さん、各サービス機関の担当者との連絡や話し合いを持ち、連携を図りながら支援できる体制を整えている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けを行い、選択できるような問い掛けで強制的にならない声掛けを心掛けている。また暮らしの中での行動、言葉や表情から思いをくみ取り、気づきノートを活用し日々の介護に活かし、家族と話し意向を知り把握している。	日常生活の中から見える、一人ひとりの「五感の澄み」を大切に捉えており、本人の特性の把握と、体験する暮らしに積極的に取り組んでいます。気づきケア送りノートには、個人の様子が綴られるなど、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントを十分行うよう配慮している。利用時家族や関係者に聞き取りを行い、日常のコミュニケーションを通じて生活の背景・本人さんが抱えている思いが探れるよう傾聴に心掛け、ご家族とも連絡を密にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	"気づきノート"を通じてその日の利用者の情報を交換して、その方の行動や活動を把握して、ミーティングの中で利用者の方々の各活動や役割が1日1回はできるよう、その方の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段より利用者や家族の面会時に意見や思いを聞く、介護計画における要望書、日々のミーティング、モニタリング、アセスメント等サービス担当者会議を行い"家族の思い"や職員が感じ取る"本人の思い"を反映できるように努めている。	独自の書式が整備され、チームで取り組む介護計画を容易にしています。ケアチェック実行確認表等では、全職員の一人ひとりが、利用者の状況を把握し共有する中で、本人や家族の思いに反映し、計画の策定と実践に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って日々の様子等いろいろな視点から記録を行い、"気づきノート"を通じ、気づいた事や行った事注意点、薬の変更等適時、新たな情報を毎日交換し合い計画や実施に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは地域性、交通等の便宜性も考慮して本人や家族の状況に応じて通院の介助や送迎を行っている。また高齢者のご家族の面会等の送迎や本人さんとご家族さんと一緒にホームの食事をして頂く等の支援を行っている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地域の関係者に運営推進会議に参加を得て、地域消防団員に緊急時の対応を協力して頂き、地域のボランティアの方々の訪問、施設の行事として盆踊りを開催し地区・近隣・家族・他関係者の参加に協力を頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接や面会時に、利用者・家族の希望を重視して納得した病院を受診している。かかりつけ医と連絡を取り合い、家族も支え医療支援を行っている。緊急時事業所の協力医の協力で医療が受けられるように家族と連携を図っている。	基本的には本人家族の希望するかかりつけ医となっている。家族が県外に住んでいたりと、遠方からの入居者には入居時に本人と家族に説明し納得と同意を得て協力医療機関を紹介している又やむをえず代行した場合は病気の診療経過を家族に報告する。その時に日頃の状況も報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐して、利用者・職員からの相談、日頃の状態観察、体調の急変等の対応を行い、必要な事柄はかかりつけ医や家族に連絡して適切な支援に努めている。また、かかりつけ医・協力医の看護師とも相談できる関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境の変化を極力回避する為入院時、医師からの説明がある際は、家族と共に職員も同席して、情報の交換、機能訓練の方針・受け入れに対しての対応準備等を話しあい、早期退院に向け職員間同士でも協働し速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始後より面会等を利用しながら重度化や終末期について話し合いを行っている。状態の変化がある毎に利用者・家族等と連絡を取り、連携を図り気持ちの変化に対応して、かかりつけ医と相談しながら対応している。	事業所でも重度化や終末期の対応が出来るよう契約時に本人と家族に説明をしている。状態の変化がある時は、家族の希望を優先しているが事業所で対応する場合は、医師、職員が連携を取り、家族に連絡し意向を確認する機会を複数回もっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成して、周知徹底を図っている。全ての職員が救急救命講習に参加して学習・訓練を定期的に行っている。緊急対応マニュアルやAED・吸引器等を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。消火器の使用方法や緊急時連絡網の確認を定期的に行い、近隣の消防団の方々にも協力を得て、隣接する施設に災害時の応援をお願いしている。	年2回以上消防署の協力を得て火災避難訓練と消化器の使い方を実施している。近隣の消防団との協力体制も大きく、災害に対する備えも充実している。	

外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝のミーティングや全体会議・高齢者虐待防止委員会の会議等で日々の関わり方を話し合い、職員間でも注意し合い、利用者の誇りやプライバシーの保護等、対応の徹底を図り、個人情報 は整理して外部の目に触れないよう管理している。		一人ひとりの権利を保障し、人格を尊重している。朝のミーティングや全体会議等で日々の関わり合い方を話し合い利用者の誇りやプライバシーの保護等対応の徹底を図っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で行きたい場所や食べたい物等をさり気なく尋ね、日頃の活動に生かしている。物事を行う際は必ず利用者に説明して目的を知って頂き、希望を聞いて、納得してもらい対応、変化があればケース記録、気づきノートを利用し職員間で共有している。		/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気持ちを尊重しその人のペースで生活して頂けるよう支援している。トイレ誘導等過剰な言葉掛けを避け、日頃の動作を熟知し仕草などにてさり気なく誘導を行っている。食事、入浴回数や時間の希望を取り入れその人らしい暮らしができるよう支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は基本的には利用者が決め、見守りアドバイス・誘導を行い支援している。買い物に出かけ自分で化粧品、衣類、靴等を選んで頂いて日々のおしゃれを楽しんでもらっている。理容美容は近隣の馴染みのお店にお連れして、普段の生活の中でも化粧を進めている			
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域で取れた季節の野菜等を利用して、利用者の好みのメニューを取り入れ、料理作りには個々の能力に応じてできる限り皆さんが協力し携われるよう配慮し職員と一緒に作り「作る楽しさ」を感じて頂いている。盛り付け、配膳、片付け等利用者で行っている			
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品の聞き取りを行い、個々に応じた食事を提供(キザミ・ペースト状)等好みの大きさや食べやすい状態、いつでも対応できるよう整えている。食事量・水分の摂取量を把握・記録を行い、気づきノートに好みを記入して職員間で共有している		/	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に応じた対応をして歯磨きを促し、利用者の状態により見守りや介助を行っている。就寝前は歯磨きの洗浄を必ず行っている。また歯科往診時職員は歯科衛生士より入居者一人ひとりの口腔ケアの指導を受けている。			

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人の習慣や日頃の排泄パターンや動作等のタイミングを気づきノートに記入して職員間で共有しトイレ誘導に役立っている。特に朝食後は排便リズムを作る為トイレ誘導を行い、自尊心を傷つけないよう支援を行っている。	利用者個人の習慣や排泄パターンや動作、タイミングを「気づきノート」に記入し職員間で共有しトイレ誘導に役立っている。本人の生活リズムにそった支援を行い自尊心や不安を軽減するためさりげなく支援するなど配慮がなされている。	高齢者には便秘傾向にある人が多く、繊維質多い食材を使う腹部のマッサージや散歩等適度な運動は取り入れているが、機能低下予防も含めリハビリに力を入れたい。今後ケアプランにも取り入れていく努力目標があり期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当ホーム所有の田畑で栽培した野菜を豊富に取り入れ、繊維質の多い食材も考慮した食事を提供し、便秘傾向にある人には冷水、牛乳や寒天を取り入れ、腹部のマッサージや散歩等適度の運動を取り入れ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるように希望により入浴の準備を行ない、一人ひとりの状態を把握して足浴や清拭を行なっている。また不安・羞恥心等に配慮した支援を行い、季節によりカボス湯・ゆず湯にて香りを楽しみリラックスしてもらえるようにしている。	利用者の希望を優先し、個別の入浴支援を行っている。不安や羞恥心等に配慮した支援を行い季節によりカボス湯、ゆず湯にして香りを楽しみリラックスできるよう工夫している。また入浴拒否の利用者には声かけ、日時を変える等対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターン、体調、希望を配慮した支援を行っている。不眠時は昼間の活動に心がけ湯たんぽの提供、足浴や温かい飲み物を一緒に飲んで過ごす事を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋がケース記録に整理して職員が把握できるようにしている。服薬時は手渡し・介助する等服薬の確認を行っている。薬の変更、状態の変化時はかかりつけ医、看護師と連携を図り、家族等にも連絡する等対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴、背景等アセスメントを活用して、利用者ができる事畑や花壇を活用して野菜作り、食事の準備(下ごしらえ)盛り付け・配膳・おやつ作り、洗濯物等等、各自が役割を持つ支援を行っている。また地域のお祭りやおせたい等に出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より施設はしておらず、いつでも利用者の意思で出かけられるよう配慮を行い、天気や利用者の状態・希望によりいつでも散歩ができるようにしている。買い物、畑仕事、季節に応じてつくし・わらび取り、おせたい等近隣の家々にも出かけている	日頃より玄関には施設はしておらずいつでも利用者の意思で出かけられるよう配慮を行っているし徘徊の方には見守り介助も行う。又外にベンチがあり日光浴や周辺の畑のあぜ道を散歩したりと利用者の状態や希望により1日1回は外出できるような支援をおこなっている。	

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員のサポートで金銭管理ができる方(賽銭程度)は持って頂き、ドライブや買い物等の支払いは職員が利用者に手渡し、支払いを行って頂けるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ラウンジには電話を置き、いつでも家族や知人と連絡できるようにしている。家族・知人に手紙・葉書を出される支援、職員と年賀状の交換等を行っている。また家族の希望により携帯電話を所持されている方も居られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が工作・手芸で四季の風景画を作り季節感等感じられる支援や朝のまな板のリズミカルな音、御飯や味噌汁の炊ける臭い、カボスの味やお湯に入る、利用者が季節の漬物を漬ける等五感、季節感が自然に感じられるよう支援を行っている。ウッドデッキがあり春夏秋冬を自然の中で心地よく感じられる。	朝台所からのまな板の音、みそ汁の匂い、漬け物の味等五感、季節感を自然に感じられるよう支援している。施設は山や花に囲まれ春夏秋冬を自然の中で感じられ、外出した時に撮った写真をホール、廊下、居室に貼り居心地のよい空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態の変化や利用者同士の関係に配慮しながら、玄関横のエントランスに椅子・テーブルを設置して外が眺められ、談話室を設け、誰でも気軽に利用者同士で談話できるよう配慮している。また1人で過ごされる時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談しながら居室作りを行い、極力今まで使用されていた馴染みの物を活用し、利用者が趣味や活動で作った手芸を飾る等安心して過ごせるよう配慮している。職員間で生活暦や日常の会話の中で得た情報も活用している。	居室内は、利用者が使い慣れた馴染みのある物を置いている。入居前にも家族に新しい物ではなく馴染みのある物と説明している。中には入居前の自宅周辺の風景を職員が画き、居室に貼り、安心できる空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昔ながらの使い慣れている生活用品の準備や職員と一緒にいながら利用者が使い勝手が良いと言う物等活用する支援を行い、利用者の状態・状況により手すりや椅子の大きさ、高さ等を配慮している		